

第112回 品質管理シンポジウム



# 新しい社会をつくる 新たな顧客価値創造への変革

— 人の暮らしの質向上への挑戦 —

東京大学大学院  
新領域創成科学研究科 研究科長・教授  
**出口敦氏**

㈱小松製作所 執行役員  
スマートコンストラクション推進本部長  
**四家千佳史氏**

コニカミノルタ㈱ 常務執行役  
**武井一氏**

パナソニック㈱ 取締役会長  
**津賀一宏氏**

トヨタ自動車㈱  
カスタマーファースト推進本部長  
**宮本眞志氏**

㈱日立製作所  
代表執行役 執行役会長兼CEO  
**東原敏昭氏**

開催期日：2021年12月2日(木)～12月4日(土) 会場：大磯プリンスホテル

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟 後援：一般社団法人 日本品質管理学会

## 趣旨



### 宮本 眞志 氏

トヨタ自動車(株)  
カスタマーファースト  
推進本部長  
第112回  
品質管理シンポジウム  
主担当組織委員

現在私たちはIoT、5G、AI等の新技術の普及拡大による大きな潮流変化の中にあります。

IT技術を駆使した新しい発想の新サービスは日々生み出され、過去に経験の無い顧客のニーズ変化への対応が必要になっています。より便利で幸せな暮らしを創造するためにはこれまで困難と考えられていた社会課題（例、都市化や過疎化、交通事故、少子高齢化や労働人口減少、資源不足や気候変動など）を同時に解決することが必要であり、既に様々な国や地域で従来の枠組みを超えた産学官の連携による新しい街づくりやソリューションが試行されビジネスモデルも大きく変化させつつあります。

日本企業は最新技術を導入してこれまで強みとしてきた良品廉価なモノづくりとサービスの更なる高度化と高効率化を追求することが競争力を担保するために必須である一方、変化する顧客の新しい（潜在的）ニーズへ対応し、社会課題を解決する取り組みが不可欠であり、従来の延長だけでは生き残れない厳しい環境変化の中で、持続的な成長の実現に向けた新たな顧客価値の創造へ自ら変革する必要があります。

日本でも産学官が連携し住民や自治体との協創により『人の暮らしをより便利で幸せにする新しい生活様式や移動、働き方、楽しみ方も変える新サービスの創出』や、『社会システムを革新する新しい街づくり』の多くの実証実験や取組み

が成果を出しつつあります。

人をより幸せにする『暮らしの質を向上する価値創造』に必要な変革は何か。生活の不便さや困りごとを理解し、従来の延長では破綻が予想される公共サービスや事業のシステムの課題と現場の課題を広い視点で理解し、高品質なモノとサービスをシステムで組み合わせた新しいソリューションを考案して“人と社会が必要としている価値”を提供し続けることが必要です。世の中や顧客ニーズの変化に対応し実現する骨太なビジョンを明確にし、新しいパートナーと新しい視点の協創による新価値を生み出す愚直なトライ&エラーと継続的な改善活動、そのために必要となる組織力を獲得して、自らの強みを進化させ社会や顧客、或いは取引先から必要とされる新たな強みを創り出すことが重要になると考えます。

本シンポジウムでは、持続可能な社会の実現に必要な新しい視点による協創活動などを通じ自ら新しい顧客価値創造の改革を牽引しているリーダーから取り組みや直面した課題をどう克服してきたかを学び、人の暮らしを幸せにする新サービスや、安全で安心な便利な新しい街づくりや顧客価値創造の実践に向けて、其々の事業視点（B2C、B2B等）から、私たち自身がどう変革していくことが必要かについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。

## プログラム

開催期日：2021年12月2日（木）～4日（土）

会場：大磯プリンスホテル

※GD:グループ討論の略称。※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。  
※組織名・役職は、2021年9月15日時点の表記になっております。

月日	時間	科目	講演者
12/2 (木)	19:30～20:40	【特別講演】「100年企業パナソニックの変革に向けた挑戦」	津賀 一宏 氏 パナソニック(株) 取締役会長
	20:40～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00～23:00	談話室(自由参加)	
12/3 (金)	8:30～8:50	主催者挨拶、ご連絡事項説明	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:50～9:20	【基調講演】 「新しい社会をつくる 新しい顧客価値創造への変革」	宮本 眞志 氏 トヨタ自動車(株) カスタマーファースト推進本部長 ※112QCS主組織委員
	9:20～9:30	休憩	
	9:30～10:10	【講演1】「持続可能で豊かな社会をつくる日立的な社会イノベーション」	東原 敏昭 氏 (株)日立製作所 代表執行役 執行役員会長兼CEO
	10:10～10:50	【講演2】「超スマート社会におけるまちづくり－産学協創の挑戦－」	出口 敦 氏 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 研究科長・教授
	10:50～11:00	休憩	
	11:00～11:20	質疑(基調講演～講演2)	司 会：加藤 雄一郎 氏
	11:20～12:10	座談会1(登壇者討議、参加者との双方向ディスカッション)	名古屋工業大学 産学官金連携機構 プロジェクト教授
	12:10～13:00	昼食休憩	
	13:00～13:40	【講演3】「顧客価値を創造し続ける スマートコンストラクション最新の挑戦」	四家 千佳史 氏 (株)小松製作所 執行役員 スマートコンストラクション 推進本部長
	13:40～14:20	【講演4】「自治体DXを支えるコニカミノルタの非財務価値 ～お客様と共に作り込む品質～」	武井 一 氏 コニカミノルタ(株) 常務執行役
	14:20～14:30	休憩	
	14:30～14:50	質疑(講演3～4)	
	14:50～15:50	座談会2(登壇者討議、参加者との双方向ディスカッション)	司 会：加藤 雄一郎 氏
	15:50～16:20	グループ討論の趣旨説明、会場移動	宮本 眞志 氏
	16:20～18:15	グループ討論(1)	
18:15～19:15	夕食		
19:15～21:00	グループ討論(2)		
21:00～23:00	談話室(自由参加)		
12/4 (土)	8:30～10:00	グループ討論報告(10分×8班 ※予備10分)	司 会：加藤 雄一郎 氏
	10:00～10:15	休憩	オーナー：宮本 眞志 氏
	10:15～11:35	総合討論	報 告：各班リーダー
	11:35～11:45	第112回品質管理シンポジウム まとめ	
	11:45～12:00	次回(113回)品質管理シンポジウム案内	猪原 正守 氏 大阪電気通信大学 名誉教授 113QCS主担当組織委員
12:00～	昼食・解散		

※談話室は、COVID-19の感染状況等に鑑み、中止する場合がございます。

講演概要

12/2 (木) 特別講演

100年企業パナソニックの  
変革に向けた挑戦

津賀 一宏 氏 パナソニック(株) 取締役会長

私どもパナソニックグループは、1918年の松下幸之助による創業以来、「事業を通じて世界の人の暮らしの向上と社会の発展に貢献する」という基本理念のもと、様々な活動を行ってまいりました。100年という長い年月が流れ、お客様の暮らしや社会の環境全体が大きく変化した今、世の中にお役立ちを果たし続けるべく、どのように自らを変革し、将来の発展に向けた道筋を描いていくのか。これは現在のパナソニックが、絶えず向き合い続けている課題です。

2年連続の大赤字と言う会社存続の危機から、その後の会社の立て直し、成長領域の探索、そしてビジネスモデルの変革—2012年からの9年を中心に、巨大な100年企業が、どのような課題と向き合い、試行錯誤、そしてチャレンジを重ねてきたのか、その取り組みと考え方についてご紹介させていただきます。



12/3 (金) 基調講演

新しい社会をつくる  
新しい顧客価値創造への変革

宮本 眞志 氏 トヨタ自動車(株) カスタマーファースト推進本部長  
※ 112QCS 主組織委員

IT技術の進化が過去にないスピードで社会の要請と顧客ニーズを変化させています。カーボンニュートラル等の実現が難しい世界規模の社会課題解決やSDG's実現への期待が高まっており、ESGを重視した経営とデジタル化に対応できなければ生き残れない厳しい変化に直面しています。

百年に一度とも言われる変化の中でトヨタは『人の幸せを量産する、人中心の新しい社会、街づくり』へ自動車製造会社からモビリティカンパニーに生まれ変わろうとしています。

これまで培ってきた現場力と改善力を一層磨き、人を幸せにする安心、安全で便利な暮らしや移動の新しいビジネスモデルを創り、新しい顧客価値の品質を保証する取組みについてお話しします。



12/3 (金) 講演 1

持続可能で豊かな社会をつくる  
日立の社会イノベーション

東原 敏昭 氏 (株)日立製作所  
代表執行役 執行役会長兼CEO

日立は2020年に創業110周年を迎えました。私たちは創業以来「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念の下、社会やお客様の期待にイノベーションで応えてきました。日立は100年を超えるモノづくりの歴史の中で、プロダクトをつくる力と制御・運用技術(OT:Operational Technology)を、また50年以上にわたり情報技術(IT)を培ってきました。このOT、IT、プロダクトを結びつけて新たな価値を生み、社会やお客様の課題を解決するのが日立の社会イノベーションです。現在、世界では都市化、少子高齢化、

気候変動や資源不足など多くの課題に直面しており、企業が取り組むべき課題として産業界全体への期待も高まっています。こうした中、日立は社会イノベーション事業をグローバルに進化させることによって、持続可能な社会の実現に寄与していきたいと考えています。本講演では、お客様との協創とデジタルデータの活用により持続可能で豊かな社会をつくる、日立の社会イノベーション事業について紹介します。



12/3 (金) 講演 2

超スマート社会におけるまちづくり  
—産学協創の挑戦—

出口 敦 氏 東京大学大学院 新領域創成科学研究科  
研究科長・教授

“Society 5.0”の提唱を含む第5期科学技術基本計画が閣議決定された2016年1月から約半年後の同年6月に東京大学と日立製作所は産学協創の協定を締結し、日立東大ラボを創設した。日立東大ラボは、「エネルギー」と「ハビタットイノベーション」をテーマとする2つのプロジェクトで構成され、“Society 5.0”の考え方に基づく社会ビジョンの構築とその実現に向けた理論・技術開発を進めている。東京大学では、日立東大ラボを第一号として、大学と企業それぞれの強みを活かしたビジョン主導型の産学協創に取組んでいる。

一方、わが国のスマートシティは、東日本大震災前後のエネルギーマネジメント型から近年は地域固有の問題解決型へとシフトし、各地で実装が進む。ただ、“Society 5.0”の超スマート社会の理念に基づき、人中心で持続可能なデータ駆動型のスマートシティへと進化させていくには、いくつもの克服すべき共通課題があり、日立東大ラボではそうした課題解決のカギを握るキーファクターへの対応を提言し、産学協創による研究を進めている。



12/3 (金) 講演 3

顧客価値を創造し続ける  
スマートコンストラクション最新の挑戦

四家 千佳史 氏 (株)小松製作所 執行役員  
スマートコンストラクション推進本部長

建設生産プロセスをデジタル技術で最適化することで変革が起こり、生産性・安全性・環境適応性が飛躍的に高まる世界。そのようなビジョンをよりスピーディーに且つ世界規模で実現するためにコマツはスマートコンストラクション事業をスピノフし、新たなパートナーとともに「株式会社EARTHBRAIN」を発足させた。

コト価値開発会社として、モノではなく顧客のオペレーション上にあるコトの品質をどのようにして担保しようとしているのか、以下のような内容で紹介する。

1. コマツの事業について
2. モノビジネスからコトビジネスへスマートコンストラクションとは
3. より高次元の価値創造へ:DXスマートコンストラクションの開発と実装
4. コトの品質レベルを担保するための取り組み:コト品質保証システム



12/3 (金) 講演 4

自治体DXを支えるコニカミノルタの非財務価値  
～お客様と共に作り込む品質～

武井 一 氏 コニカミノルタ(株) 常務執行役

コニカミノルタは創業以来100年以上に渡りものづくりの現場で品質担保に向き合い、また品質の確保に試行錯誤を重ねてまいりました。近年ではこの製造プロセスで培った「メーカー力」や「品質作り込みノウハウ」を活かし、課題提起型カンパニーとして地方自治体様の現場に入り込み、お客様とともに業務の可視化、データに基づく業務フローの改善提案や自動化に取り組むことで、自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)の具現化を支援してきております。

本セッションではコニカミノルタが地方自治体様と取り組んできた具体的な協創事例を交えながら、お客様にとって価値のあるサービス品質作り込み手法についてご紹介いたします。



<p>第1班</p>	<p><b>社会要請とお客ニーズの変化を把握し、新たな顧客価値創出へ全社の変革を牽引する経営トップのリーダーシップの在り方</b>  <b>木内 正光</b>(玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授)  <b>正井 健太郎</b>(株)日立製作所 執行役常務 モノづくり・品質保証責任者 兼 安全衛生マネジメント推進本部副本部長</p> <p>趣旨          未来へのビジョンをデザインし、社会課題の解決並びに顧客価値の創造を持続的に行うことは、企業経営の根幹である。この活動を全社的に進めていくためには、経営トップのリーダーシップが不可欠である。新たな事業の創造、ビジョンのデザインと調整、社内意識の統一を図るアプローチ、組織的工夫などを牽引するにあたり、経営トップがとるべきリーダーシップの在り方について検討する。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 将来、自社がどう変化していくのか(どう変化させていくのか)、明確な将来ビジョンをどのように創るのか。また、全社(サプライチェーンを含む)への共有と更新の方法は(組織的特徴なども含む)。</li> <li>② 将来の社会ニーズの予測と顧客価値創造との繋がりや、顧客の潜在ニーズ把握の現場と経営的意思決定との結び付きを、どのように構築すればよいか。</li> <li>③ ビジネスモデルの変革、新たな顧客価値を創出する企業文化をどう醸成していくのか。</li> </ol>
<p>第2班</p>	<p><b>社会課題、顧客の潜在課題を理解しコト価値を構想する活動の進め方</b>  <b>内田 雅文</b>(元コニカミノルタ(株) 取締役 常務執行役) <b>小野寺 昭則</b>(株)EARTH BRAIN 代表取締役社長</p> <p>趣旨          モノづくり企業がコト価値に取り組もうとした場合、最初につつかる壁が「未来の社会課題、顧客の潜在課題の理解」であるが、従来の製品QCD中心のやり方では上手くいかない。また、潜在課題抽出のためには顧客との「共創」が必要であるとよく言われるが、具体的にどうやっていいかわからないといった課題もある。そして、実は全社でコト価値創造が浸透していかない最も大きな要因は、保守本流のモノづくり体質の既存組織の存在であることが多い。2班ではコト価値構想の初期に見られる企業内の生々しい課題について議論・整理し、突破口を見出すことを目的とする。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① いかに社会や顧客の未来の課題を見出すか(自社の製品から顧客を見るのではなく、顧客のビジョンや将来やりたいジョブからいかにコト価値を構想するか)。</li> <li>② 顧客のビジョンや将来やりたいジョブを考察するのは自社だけでは難しい。よって顧客やパートナーとの「共創」が基本となるが、どういった具体的な活動をしていくと良いか。</li> <li>③ コト価値創造を進める際、往々にしてモノづくり体質の既存組織の反対・対立が推進の障害となることが多い。全社としていかに解決していくか。</li> </ol>
<p>第3班</p>	<p><b>顧客価値の構想から事業化までを継続的に実現するプロセスの改革</b>  <b>光藤 義郎</b>(一財)日本科学技術連盟 嘱託) <b>遠藤 秀信</b>(元株リコー 顧問)</p> <p>趣旨          顧客価値を継続的に創出・事業化していくためには、そのためのプロセスを確立する必要があり、このプロセスを構築・運用していくためには、人的資源の確保、組織・機能の改革、再構築、新たな手法・ツール・仕組み・仕掛けの創出といった種々の要件が求められる。これらは自組織以外の顧客・パートナー(自治体、学、企業など)の巻き込み・協創といった局面においても必要となってくる。当然、このような要件を担保するためには、それを可能とする能力が組織に備わっていなければならない。第3班では、こういった顧客価値創造活動プロセスの構築・運用に必要な要件と、これを担保し得る組織能力を特定した上で、その獲得・向上のためにTQMをどう活用していくべきかについて議論する。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 顧客価値創造活動プロセスを構築・運用するために求められる要件は何か。</li> <li>② その要件を担保するためにはどのような組織能力が必要か。</li> <li>③ その組織能力を獲得・向上するためにTQM活動要素をどう活用・改善するか。</li> </ol>
<p>第4班</p>	<p><b>既存事業と顧客価値創出を継続的に両立推進する組織運営の在り方</b>  <b>金子 雅明</b>(東海大学 情報通信学部 経営システム工学科 准教授) <b>菱川 哲行</b>(NECプラットフォームズ(株) 執行役員 兼 CS品質推進本部長)</p> <p>趣旨          将来ビジョンを確実に実現するためには、既存事業の高度化・効率化とともに、新しい顧客価値、新事業の実現の双方を両立推進するための新たなガバナンス、マネジメントが必要だと考えられます。とりわけ、知見が無い新しい顧客価値を創出するための中期経営・事業計画の策定、方針管理・展開、及びそれらを管理するための組織や運営体制について、従前のやり方で本当に通用するのか、どのようなやり方や仕組みに変革すべきかを、各社の取り組み事例を通じて議論します。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 既存事業と新規事業の両立推進の取り組みにおける各社の失敗、成功事例の紹介。</li> <li>② 既存・新規事業の両立推進における困難、留意事項は何か。</li> <li>③ 新規/既存の両立のマネジメント(例えば、方針展開・管理方法・マイルストーン設定など)。</li> </ol>
<p>第5班</p>	<p><b>新たな顧客価値に対する品質保証のあり方</b>  <b>飯塚 悦功</b>(東京大学名誉教授) <b>北村 晋</b>(トヨタ自動車(株) カスタマーファースト推進本部 TQM推進部 部長)</p> <p>趣旨          技術の進展により新たなビジネスモデルやサービスが実現可能となり、これまでにない新たな価値が提供できるようになっている。モノ価値にとどまらずコト価値の品質を保証するため、特に価値の訴求、価値享受の支援、リスクへの配慮などにおいて、保証すべき品質の範囲が拡大・深化している。こうした状況認識のもと、これからの品質保証において必要とされる概念、能力、体制について考察する。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 起(提供価値の概念):従来のモノ価値とは異なる、コト価値に代表されるような新たな提供価値を生み出す概念は何か?</li> <li>② 承(強化すべき能力):そのために、必要な強化すべき品質保証能力は何か?</li> <li>③ 転(保証範囲の変化):従来の品質保証の範囲と深さはどう変わるか?</li> <li>④ 結(必要とされる体制):その結果として、どのような機能、組織構造、運営体制(プロセス、知識基盤)、方法論が必要となるか?</li> </ol>
<p>第6班</p>	<p><b>新しい顧客価値の創造をリードする人材確保・育成</b>  <b>佐野 雅隆</b>(拓殖大学 商学部 准教授) <b>翠川 宣之</b>(株)安川電機 人事労務本部 副本部長 兼 TQM推進部長)</p> <p>趣旨          新しい顧客価値の創造を目的とした組織能力確保の観点から、人材に焦点を絞って議論します。現場へ入り込んで顧客の潜在課題を把握し、新しい顧客価値を構想できる人材(デザインシンカーなど)の確保・育成はどうかあるべきか?人材が持つべき能力と具体的な評価と育成について、各社の取り組みや課題を参考に、社内と社外の確保の両面から考察し、あるべき姿を検討します。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 新しい顧客価値を構想できる人材が持つべき能力とは何か。</li> <li>② 現場をどのように捉え、潜在課題をどのように把握するか。</li> <li>③ 人材確保(見出す)の方法と評価・育成の在り方、それを支える組織体制や制度における重要なこと。</li> </ol>
<p>第7班</p>	<p><b>新しい顧客価値創造に必要なIT新技術の活用をリードする人材確保・育成</b>  <b>椿 広計</b>(情報・システム研究機構 理事 統計数理研究所長) <b>高倉 宏</b>(トヨタ自動車九州(株) TQM推進室 室長)</p> <p>趣旨          顧客価値の企画設計・実現提供の様々なプロセスで、ICT技術を通じて膨大な顧客関連やその実現工程情報が生成可能となりました。顧客価値最大化オペレーションを俊敏に支援するデータサイエンス技術も急成長しました。拡大する情報と進化するIT技術を適切に選択し顧客価値創造を実現する専門人材を誰がどこで育成し、どのようなマネジメントで活用し、彼らのキャリアパスを描くべきかの指針をまとめたい。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要な専門人材育成は、産学がどの程度の規模でどのような方法で行うのか。</li> <li>② 専門人材にどのようなプロジェクトを担当させるか、その際どのようなプロジェクトマネジメントを行えば、顧客価値創造に資するか。</li> <li>③ マネジャーが専門人材を活用するために必要なリテラシーはどのようなものか?</li> </ol>
<p>第8班</p>	<p><b>顧客価値創造を継続的に強化する全社員の意識・行動変革</b>  <b>棟近 雅彦</b>(早稲田大学 理工学術院 教授) <b>安随 正巳</b>(一財)日本科学技術連盟 品質経営創造センター 部長)</p> <p>趣旨          第111回本シンポジウムの第8班・グループ討論において、「これからの品質経営」において、「顧客の理解」、「外部適応」、「内部適応」という視点ごとに、やるべきことを明確にしました。今回は、それをさらに掘り下げるとともに、その実現に向けた自社を改革するビジョンと全社改革の必要性、役員から職場第一線に至る全社員の意識・行動変革の在り方について、提言をまとめていきます。</p>	<p>論点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① これからの品質経営の実現に向けて課題となっているものは何か?</li> <li>② 「これからの品質経営」の実現に向けて組織全体の意識・行動をどう変革していくべきか?</li> <li>③ ②を達成するために、組織の各階層が果たすべき役割はどのようなものがあるか?</li> </ol>

※原則として、各班 10名を定員としております。先着順となりますので、第1希望の班が定員に達した場合、第2希望とさせていただきます。ご容赦ください。  
 ※組織名・役職は、2021年9月15日時点の表記になっております。

# 〈確認ください!〉第112回品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

品質	顧客及び社会のニーズを満たす度合い
品質保証	顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
	⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
サービス・ドミナント・ロジック	価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる ※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
グッズ・ドミナント・ロジック	価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている ※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
	⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか?」という着眼点で考える。

## 品質管理シンポジウム会員にご入会ください!

QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

**メリット 1** 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

**メリット 2** グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

**メリット 3** 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員:1口につき年額199,100円(税込み) 団体会員:1口につき年額117,700円(税込み)

※2020年度から、年会費を改定させていただいております。

### 入会いただきますと

● **企業会員:無料参加枠2名(トップ枠・通常枠)を確保できます。**

● **団体会員:無料参加枠1名(通常枠)を確保できます。**

● 無料参加枠以外の方は特別価格(44,000円・税込み)でご参加いただけます。

● 本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は、随時受付しております。

## 品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2021年7月現在、50音順 **115社**

1 アート金属工業(株)	31 サンデンホールディングス(株)	59 (株)東海理化	89 日野自動車(株)
2 (株)アーレスティ	32 (株)シーヴェイテック	60 東久(株)	90 ヒロセ電機(株)
3 (株)アイシン	33 (株)GSユアサ	61 (株)東陽テクニカ	91 (株)フジクラ
4 アイシン・インフォテックス(株)	34 (株)ジーシー	62 東レ(株)	92 富士フィルムビジネスイノベーション(株)
5 アイシン機工(株)	35 (株)ジーシーデンタルプロダクツ	63 TOTO(株)	93 富士フィルムマニュファクチャリング(株)
6 アイシン軽金属(株)	36 JFEスチール(株)	64 (一社)富山県経営者協会	94 富士電機(株)
7 愛知製鋼(株)	37 (株)ジェイテクト	65 トヨタ自動車(株)	95 フジミ工研(株)
8 アイホン(株)	38 芝浦機械(株)	66 トヨタ自動車九州(株)	96 フタバ産業(株)
9 (株)麻生	39 清水建設(株)	67 トヨタ自動車北海道(株)	97 (株)ブリヂストン
10 (株)アドヴィックス	40 JUKI(株)	68 (株)豊田自動織機	98 ぺんてる(株)
11 (株)イシダ	41 シロキ工業(株)	69 トヨタ車体(株)	99 (株)保志
12 NECプラットフォームズ(株)	42 (株)新川	70 豊田バンモップス(株)	10 本田技研工業(株)
13 (株)FTS	43 (株)SUBARU	71 トヨタ紡織(株)	101 前田建設工業(株)
14 (株)MCシステムズ	44 住友理工(株)	72 トヨタホーム(株)	102 (株)前田製作所
15 エリーパワー(株)	45 積水化学工業(株)	73 長津工業(株)	103 マツダ(株)
16 大塚化学(株)	46 (株)セキソー	74 新潟ダイヤモンド電子(株)	104 (株)マルヤスエンジニアリング
17 岡谷電機産業(株)	47 ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)	75 (株)ニコン	105 丸和電子化学(株)
18 (株)オティックス	48 ダイキン工業(株)	76 日華化学(株)	106 三島食品(株)
19 オムロン(株)	49 (株)大広	77 (株)日科技連出版社	107 三菱電機(株)
20 鹿島建設(株)	50 ダイハツ工業(株)	78 日産自動車(株)	108 (株)村田製作所
21 (株)キャタラー	51 大豊精機(株)	79 日産車体(株)	109 (株)メイドー
22 光洋サーモシステム(株)	52 ダイヤモンドエレクトリックホールディングス(株)	80 日本精工(株)	110 名北工業(株)
23 コーセル(株)	53 大和リース(株)	81 日本電気(株)	111 (株)安川電機
24 小島プレス工業(株)	54 (株)竹中工務店	82 (株)日本科学技術研修所	112 (株)ユニバンス
25 コニカミノルタ(株)	55 中国化薬(株)	83 日本商工会議所	113 楽天グループ(株)
26 (株)小松製作所	56 (株)千代田グラビヤ	84 日本特殊陶業(株)	114 (株)リコー
27 (株)コロナ	57 DMG森精機(株)	85 パナソニック(株)	115 リコーテクノロジーズ(株)
28 サラヤ(株)	58 (株)デンソー	86 パナック(株)	
29 澤藤電機(株)		87 (株)羽生田製作所	
30 サンデンシステムエンジニアリング(株)		88 日立Astemo(株)	

## 参加要領

※詳細は、開催要領をご確認ください。(宿泊費等)

開催日時	<p><b>2021年12月2日(木) 19:30~4日(土) 12:00</b> (12月2日受付開始17:00~、夕食18:00~)</p> <p>第112回品質管理シンポジウムは、現段階では予定通り開催いたします。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大等、都道府県・自治体または保健部局の協力要請等により、オンライン開催に変更する場合がございます。(2021.9.15現在) 最新情報は、適宜webサイトでご案内を申し上げるとともに、連絡担当者様にe-mail等で別途ご連絡いたします。</p>
会場	<p><b>大磯プリンスホテル</b> 〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546 TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281</p>
参加対象	<p>企業の役員、上級管理職の方々 ※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論テーマに深い関連のある部門とその役割を担うの方々のご参加について、ご検討をお願いします。</p>
参加方法	<p><b>集合参加</b> 現地(大磯プリンスホテル)へお越しいただき、シンポジウムの全プログラムへ参加可能</p>
	<p><b>ライブ配信参加</b> PC等で、特別講演(1日目)、基調講演・講演1~4(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)を視聴可能 ※ライブ配信参加の場合、GDへは参加できません。 ※ライブ配信の詳細(配信プラットフォーム、推奨環境等)はWebサイトをご参照ください。</p>
参加費(税込)	<p><b>QCS 企業会員・団体会員</b> 参加方法に関わらず、トップ枠・通常枠の2名無料枠をご利用いただけます。 ※トップ枠を使用されない場合、無料枠は「通常枠のみ(1名分)」となります。 無料枠以外の参加は、参加方法に関わらず、44,000円/1人の参加費を申し受けます。</p>
	<p><b>一般参加</b> ライブ配信参加のみ 99,000円/1人</p>
	<p><b>団体参加(ライブ配信参加) NEW</b> シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加(視聴)いただく場合に、ご利用しやすいように今回から新設した参加形態です。 ◆50名まで…330,000円 ◆51名~100名まで…880,000円 ◆101名~200名…1,100,000円 ※200名以上の場合は、下記までお問い合わせください。</p>
	<p><b>その他、付帯費用</b> ・宿泊費は、開催要領をご確認ください。 ・食事代(12月2日夕、12月3日朝・昼・夕、12月4日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれています。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。 ※大磯プリンスホテルは全館禁煙です。喫煙禁止場所(各居室等)での喫煙が確認された場合、50,000円のクリーニング代を請求いたします。(電子タバコも禁止です)</p>
シンポジウム申込方法	<p><b>QCS専用Webサイトからお申し込みください。</b> <a href="http://www.juse.jp/qcs/">http://www.juse.jp/qcs/</a></p>

## 最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)

第111回



**山本 圭司 氏**  
トヨタ自動車(株)  
執行役員

第110回



**樋口 泰行 氏**  
パナソニック(株)  
代表取締役 専務執行役員  
コネクティッドソリューションズ社 社長

第109回



**百野 研太郎 氏**  
楽天(株)  
副社長執行役員  
COO

第108回



**麻生 泰 氏**  
(株)麻生  
代表取締役会長

第107回



**山名 昌衛 氏**  
コニカミノルタ(株)  
代表執行役社長 兼  
CEO

第106回



**寺田 直行 氏**  
カゴメ(株)  
代表取締役社長

## 品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

(組織名・役職は2021年9月15日時点の表記になっております)



**猪原 正守 氏**  
大阪電気通信大学  
名誉教授



**小笠原 浩 氏**  
(株)安川電機  
代表取締役社長



**中條 武志 氏**  
中央大学  
教授



**永田 靖 氏**  
早稲田大学  
教授



**宮本 眞志 氏**  
トヨタ自動車(株)  
カスタマーファースト  
推進本部長

**一次申込期日:10月18日(月)までとさせていただきます。**

※一次申込期日までは、集合参加でのお申し込みは、ソーシャルディスタンスの確保、3密の回避の観点から、各社1名様に限定させていただきます。一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、二次申込を実施します。二次申込の詳細は、改めてご連絡いたします。

シンポジウムの  
内容に関する  
問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当 (池田/中村/安隨)  
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1  
TEL: 03-5378-1215 FAX: 03-5378-9842 E-mail: tqmcre@juse.or.jp

参加/宿泊  
申込・請求に関する  
問い合わせ先

株式会社 JTB 虎ノ門第二事業部 QCS 事務局 (担当: 渡辺/奈良/徳田/高岡)  
〒100-6051 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビルディング 12 階  
TEL: 03-5539-2849 FAX: 03-5539-2828 E-mail: qcs@jtb.com